

教育長賞
高山想真「僕らとリスの五日間小戦争」

僕らとリスの五日間小戦争

町田市立藤の台小学校 六年 高山 たかやま 想真 そうま

月曜日の朝、六年生全員が体育館に集う。一番前に居るのはやはり校長先生。ではなくリスのような生物。僕らはその生物をにらみつける。この生物はリス園から脱走したリスが、ある博士がつくった謎の液体を飲んでしまい変化した生物だ。体は大きく目は赤い。何でも食べてしまうからハングリースクワールと言われている。駆除をしようとしているのだがオスやメスと関係がないためすぐに増えてしまうのだ。そんなハングリースクワールとある鶴藤第一小学校に入ってきた。

六年生と教員が駆除をするようになったが中々難しい。いつもいつも逃げられてしまう。そんな時、僕はあるうわさを耳にした。薬師池公園に龍がいるといううわさだ。僕はその龍ならハングリースクワールをどうかしてくれろと思ひ、いつもの仲良しグループの正氏と遥彦、恵と一緒に薬師池公園に行った。龍が出てくる呪文を唱えた。四人で「アンバイラー、イークババー」と。そうすると池から何か出て来た。龍だ。龍は恵の足をつかみあげ人質にした。龍は「なんだ」と強い口調で言ってきた。事情を説明した。そうすると協力をしてくれることになった。そして色々なことを教えてくれた。例えば「ハングリースクワールは人に化けられる」こととか。

水曜日の朝、僕らは薬師池公園に集まった。いつもの仲良しメンバーと龍がいる。僕らは銃を片手に持つ。そう、今から反撃開始だ。龍とは一旦離れ仲良しグループでハングリールクワールを探す。探し始めてから五分くらいしたら鶴藤第三小学校の前にハングリースクワールがいた。僕は汗を垂らしゴクリと唾を飲む。緊張している僕に気付いた正氏が僕の肩を優しく叩き「大丈夫」と言った。ハングリースクワールが腹をならした。ハングリースクワールは空腹になるととても危険だ。遥彦が飛び出した。ハングリースクワールは大口を開けた。遥彦の弾丸はハングリースクワールを掠る。弾丸には薬が塗ってある。五秒間の沈黙。その後ハングリースクワールが可愛らしいリスになる。戻ったのだ。僕らはこの調子で何百体もリスに戻した。

しかし次の朝、僕らはとんでもない光景を目にした。十五メートルもある巨大なハングリースクワールがいた。僕らは龍の所に逃げようと思ひ走った。ずっと走った。しかし薬師池の目の前で正氏がかまった。逃げるか助けるか迷っていると池が光った。何か出て来た。龍だ。龍はハングリースクワールを包み込み何匹ものリスに変えた。その次の日、本当の平和がお

教育長賞
高山想真「僕らとリスの五日間小戦争」

とずれた。しかし不思議な光景を見た。学校の授業中、恵の尻の方からリスの尾のようなものが見えた。そういえば恵の目は赤みがかつてゐる。あれは僕の見間違ひだったのか今でもよくわからない。

審査員講評

リス園や薬師池公園など実際に町田にあるものからこんなお話が生まれるとは、と豊かな想像力になりました。スピーディーな展開に引き込まれ、臨場感あるバトルシーンにもハラハラさせられます。ハングリースクワレルというネーミングもいいですね。行間からエネルギーがほとばしる、じつに意欲的な一作でした。

——
田丸雅智